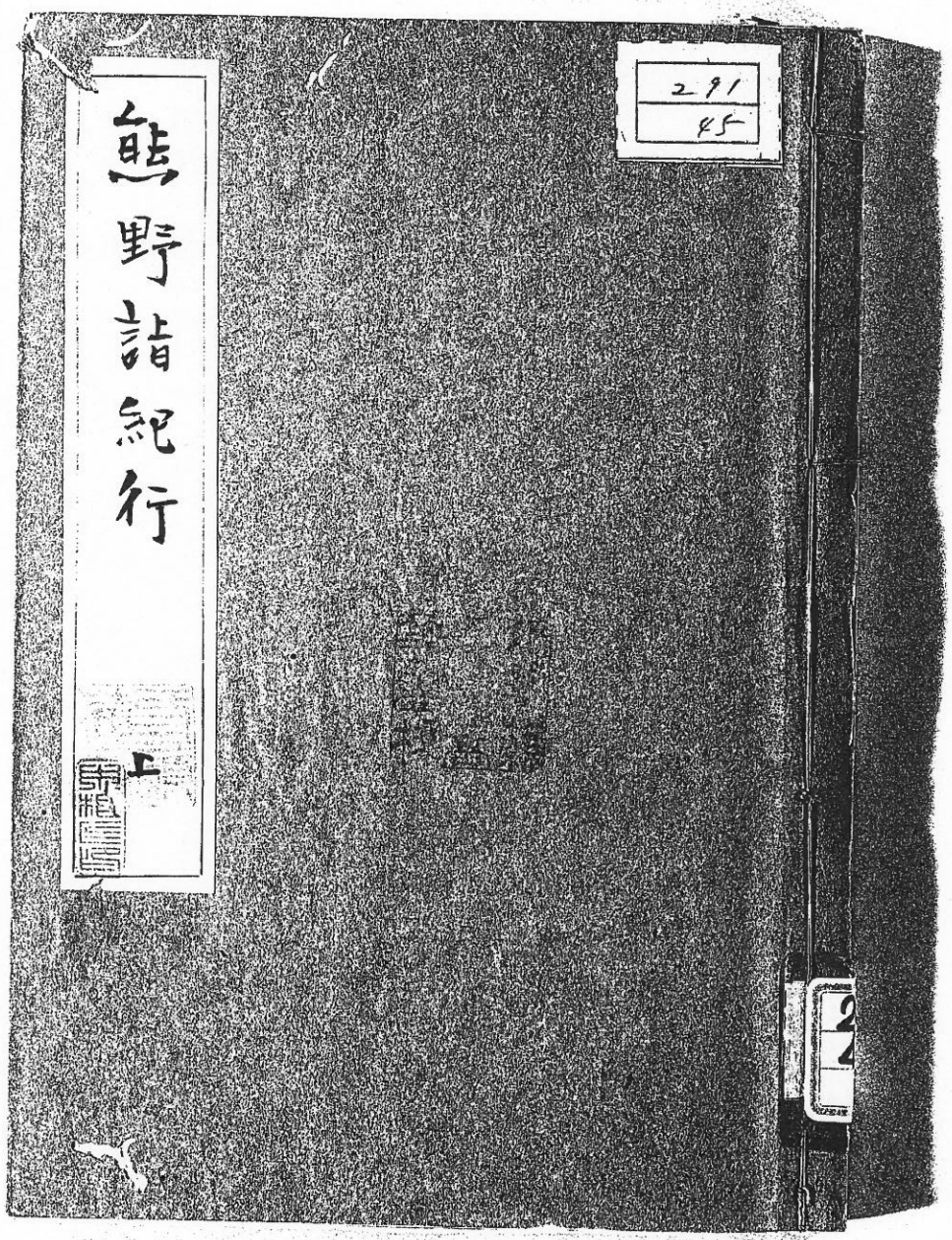


県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

221
65
1

中根七郎氏寄贈

熊野修行 上

古座高校図書館
28.10.21
蔵書NO. 3971

書中絵ハ摹写ヲ得ザル大概ヲ写シ至ク

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03971

無事修祓行

伊勢神宮にまゐりてたまひてのち人の世ふ
つり業神の及ぼすとはいへ本宮を建たまふこと新宮殊
勝なることわりとかや天照大神二神の降神たち
てましつゝ御権現とあがめ申しつゝのみかしこまり
あまたゝびあり給ひてふたつ民くさのあはれ歩みやはこ
ふへや重かぶかこめつれとみやつかへせる身のせんを一
おくて千年月をいくらけふかことし竟政十のとしたのみつ
るかたの熊野おまうでんとて称十其せられんとの事をか
の宮の内の鳥のそらおかけり思ひとりてまさしくも
北へくやよひ中の八日といふかたそもかたみ
先まへる君国まもろとし寄これたる霊なの望や公出つゝ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03971

住吉の社かぬさ峯うすかひ浦こぎ出る船のうみなみおほき名所なれとひけき道中をふり見向一事とものとしへい忘れ草生ませりなん事とにいかくおもひわれい旅路のよろくつかみくかき筆ふまかせ書つけなるかくまちの都をいつしか日かずへて百童かやまるみの関かふ二葉といふりも

筆者　林信章像

三月十八日長谷まいり難波より出大つか天王寺

大坂より　南路里程

今宮、一里　住吉へ二里　堺大小路、三里
清水、三里半　助松、五里半　紫和田、十里
大津、六里　貝塚、十里大町（一八里とも云也）
牧川、十四里　谷山、五十六里　泉大津、十八里
阪波、七二里　日高ノ小松原、七六里三十四丁
田辺、三十五里　近神、三十八里　本宮、四十八里
新宮、九里（大雲取七十六丁三十八里ハ下
那智山、九里（大雲取七十五丁五十六里半ハ下
今宮村　此新家　天下第一霊社　住吉　若宮村
新大和川橋　堺ノ七村　堺大小路

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

是迄摸為是より泉水大夫郎

南出ル相　清村大庭ヨリ二里半　一里餘左大仙陸奥ヲ
乳岡ヨリ駅見宿新宿所ヨリ　石津村人家立つづく
駅子村村の中に有ヤシヨリ石津川長サ三間の土橋村
なつれ少し行けば
清水右松原あり
此間廿丁許清水より一丁餘の見事なる松原あり左ハ田畑
所々人家遠近ニ見ヘ所あり松原ヨリ田畑見ハ始テ右
ノ
人家　街道人家ハ
村はつれ左ハ此村の神社森ヨリ来ル道ヲ左ヘまがれ
ば左ハ土手迄松原右ハ高岩の陣也

言師宿

古右　　家　七
此陣屋おゐての陣のはま辺の名ヲ得たりつれ
全集　　一雲紀行
言ふかきく言師の宿のおた説にすけ神のおれまこと
言石村　茶屋あり
高石大明神右奉の門に在
小言いし　言石の内おつゝし　土村越ヨ
一里餘　是迄泉水大夫郎ヨリ同名泉　郎
すけまつ
人家多し左田畑ひろく右海近し大陸の計まつ廿丁餘
島の宮　右森の内に右大陸の内也中森安夜ヲ廿軒来

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

りとまる事數十七云

大津　茶屋有り茶和日こ一里　人家志賀くさつとして大林

也

大津川　川幅四十間ありて深き故すこ

たゝかず　人家立つゞけり

一里塚右海中下はかり田畑右田畑ひろし

是迄泉　郡皆すべて南泉郡

いそのかみ村　右道五六丁左田畑ひろし

まさや　石もし酢也

八幡宮　森

此森左に有道の地およそ大森や少しゆい牛村の人家

立つゞく

出村　右海辺下はかり左前小田し

師村　目塚ハ一里ト云

此村の小社あり左小丈ばかりの松木有りて松のはいつ切て三

株也此木の幹すべて瘤多の心ハおて所々皆ら也石碑十基

ホ日し木の根すべて石碑有りそよう人家續き茶屋有り

石碑　ほゝ何事誌れし

家數四　目塚ハ十八ケ

此の日雨かけいと土手ふ道本村泉助下けるの間也松泉

村をえの村といふおるいこんと書れい土手の脇斗間か

たら寸上おていを間ふたらぬ土手ふれと根を外ハ出さ

ぬおゝとも土手の外両脇とりわらハきの家中所有家な

り斯てつゞく

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

町

家奈ト一坪の向ヒ下あり之町の中ニ石ばし有り大
水ヲ三ツ跨あり左ハし入る事六七丁ニて御の橋や
神　大ホて下

右門古れい、田圃南北とてばく風の害莫多し右ニ
曽根驛

人家はなれ郵舘を始め本通迄し左田畑なく人家連江
ホ足て土地一統ハ
なれい

注田村　人家七軒石ばし陸て
見渡の町　家数ハ三十六下　大体ハ四里　田川ハ七里
家居末迄田ホまされり路よ来ル
ト事　号真教寺ト有真宗寺

此ところ川ト手持御堂あり往来常佛ト云宗西の両
本願寺か建ル下

今十八日　日ル夕陽ハ過ケれい
若松奉行支方止宿き人ハ百文永銭
三月十九日出ル天気下雲ヒ出はなれて桜石有

是迄来ル南泉郵舎より　河ホ日根迄郵
是より七下ばけい

沢村
永久村　西南ハわたる土地や
ふで川　土地開れい家居二軒有野原ヒ云
桜はら　桜石有

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

左り佐野若山へ十丁ばかり行道ハ下の方へおくだりし有
宮より加太へ山ゆき佐野道へ行ば右かわ村の稚社森のかけをおくり宮より加太へ西南かあたるせ
川辺
百軒村　右かわ社より社森右土堀添り
みかと村　野と家多し百軒堀や町の中かをの
ひら村　是迄ハ本村より、ハ人家の屋敷をとおりて
十丁下り行出けるか

十軒右ありとも左右いづれ道へ行とも佐野へ通るせ
ずれと飯塚とやらんいづれ人の記なき通りす

佐野　是より三十六丁　人家をつづく
春日大明神　南向　右より坂の入口かあり
高程寺村
十丁ばかり　両方おもの中を行く右か高程寺ハ坂尻へ有
よりハ右通迄
みち広　川ハ、へおりに茶屋両有り
川　川幅弐丁大木ハしばしハ水流ハ大抵けし
少し越日本へのぼれハ岡田の町ハして人家をつらなり
り屋敷根より海辺ちかくいつまでも
樽井　人家多し　屋敷根出はずれて
川　川幅弐丁ばかり海へ水かれ入
大味　是より四里　田川江三里

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

人家百軒余有り此東より田川への三里へ通し土人の
ことばさか　田川三里てよりかいつと云
大宰の帥旅所
筆者推測、茶有り大宰とへ左の山の根半里ばかり有
といふ此所へ西より此の海道有り
新村　茶屋有り
はてて　ホヨデと云和漢より所　土坊　柏坊
身郡　人家多し右はおれいか境有柏坊　山ちか　東か村
の神社森有り此かけ休むおたくりよかし
けこづくり
山ちかく谷のおかに柏坊有る
筑紫大明神森大ホーと中なよし一祠か池有り夫より谷の

おかに柏坊有りおたる
山中新田　土人箱つくり新田と云
是より小山ホカへ右か池有りおよそ行へ茶屋有り
たんのあ　松並木有り榊木葉第一と知りおよそ榊」
谷川　柏坊より三町半
よし琴ノ木海一面の見ゆる小塚有り池より旦人か
いかりの塚と云此田地の塚と云池を田地
当田地の人の塚有りそくわーきいけれい夫ちぬ
かたりよ宮を西れい小高き処か休む吸飯へちかし
谷川　柏坊　鰯有れい
ふけいの浦　人家多し唐木偏よ出す
千歳

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

加太海一帯は　牛深市新鯨也著和布すさまじき
牛深に形見の海といふ名所あり　ただ海といふ也俗が唱ふる所也淡路すまことかちかくあれば
俗り島　加太海の路中に有俗が島といふふたつの
島をいふ也俗の熊行所五ヶ所の霊地あり　いずれ
島形見の海よみ人也

新勅撰

須磨の関守　夜の更行は袖か島かた々の海かたより嘗来り

後京極

哀明の空かすみ行袖の月をのこれる
加太を枚田と書ト稲を刈おれとも俗かおちこて不改」
人家寄ラー浪師舟のりの頼かほくあり　いふ人に望の

かちひとて民家のあるへき宿等の時に旅人か手かるき辛
生者かある時に家のそばか柿といふ　のをとり男女をさ
らは志ろ　とす号を加太のかい志といふ　とかや人今
上かたの道ほつの如きものあきるといふ　へといふこと
かおのもの中か所のものも又あるへき人のかたり
き

要基大明神　少彦名命を祭と云東向女神か坐す野依か
太郎右ヶ宮所より一ヶ鳥居有宮号所か霊宝第宝
有号より神社を行右山に東か有たる
弘法　鏡池の井　名のみや　井向名おもしろし
天和二年正月建立
是より山の向ひすこし行

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

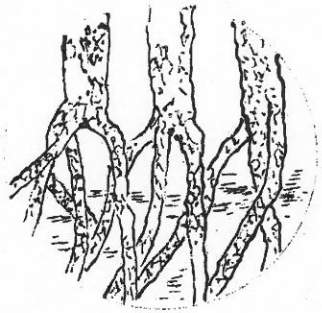
みち地　道の左右に有
りとまき　八幡宮社有　家百四五軒
あり　糸まり歌名物也
是より若山まで平地ばかり左右山迫り大かた平地
かと云のわき迄少しうねり有はかり也東へ行く
西の庄　過れば　八丁の間左右に松並木あり大け事下は
かり古い人家はかりにぎやかにまつもかり
松江　家ごとにかれすゝきの間をこゝてゐる
道入　道入川わたれば　わたりの右へ並木松原川
かそれより計まき　かゝまかり三四丁ゆきて右へ
わたる二つの村とはか土はかり長さ十二三間有り巾よ
り又すこし小橋へ行

きつね島　家五六有り
北一里　家よりきの川の渕へ橋へ下り茶屋あるかり
きの川　此川へ深大峯より出て伊都郡高野山へ掛
の四郡を経て海へ入るとも也
古歌か
まつたけをきの川ともろくほるかりかの、奥に茶やちらん
家をわたれば若山の町かはに
若山　若山又鞨山とも作
此地より陸ろ道法をおよそ
十里、廿五丁　若浦へ四十三丁
此二家合より此所へ若山七八里半空の一里塚よ
り里数を取よし也

八事登一里　中原一里半　加木一三里
藤白坂一三里　笠原一五里　鳴川一六里
湯茶一六里　大根一七里　南郷一七里　田辺一八里
笠甘一九三里　湯峯壱里半　本宮一物二里
新宮一九里二十町　那智山一九里二十町
大雲坂二十五里　大雲坂二十五里
今廿日田川を出て十丁天気よく此日本合計廿大和屋古
右衛門と云方へ着等
　村里嘸米屋善兵衛方此宿を人物致林藏
若山の町へ無滞おもむき右衛門かたへ行
のてかたのけつくりお礼の品かたき旨謝し
若山より舟陸へ通うすきくお礼三井寺へ行
有中宝へ出てかき其ト一泊田慈の社で
通る
日前国懸大神宮の社へ秋月村の者
おのれ一まわりおほく書をすて一枚を祀り国逆在勢たり天
道根命の指導ありと云名筆へ宮神限吉と云
　風雅集て
名草山とう山地の書すて廿坪ありけれどひくきの双山
是より手ひら村　中島村　飯かさきの村辺と双かつら
村を過て漸一里ほく行三井寺おいたりとまいたりまし
書つく
四月十四日かへるさの節当日廿五日熱田へと心ざし行
かとより廿五日熱田へと心ざし行
たり熱田へ廻り見物ありかへる道の所々おくか那古浦

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

三月廿一日午前七時廿五分天気よし先大和屋次兵衛門前より
船に乗り組船にて海内を下る
府城　　寺院伏城
山手より市街家中屋敷取廻り立つらなる也見巡
り南へ出るに大かた家中屋敷にて多く吟吉川の辺まで
あり其中に寺院も少なくあり川より見ゆるかいとも
あらてさらなり
吟上の船人堤亭主の方へ立より茶漬やりて行
吟上　　牛渡より海を左に
根あり松の岡
根の方さし一町二向有



下はひりの向左右へ根あり松原
やや小鶴松等の松古
り木ありて又小根あり
り松
吟上の左　　小川い神社
さありしかと大いに小社にいふ事を忘れ
かし此まゝはりの西小向方村といふ所に生の宮大明神
といふ小き社あり此外に小き宮いくつも見へ
上の神といふつらんかと有
　　古三有
秋角の吟上より百苅い花あらなし波の上より

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

満月の時上の江のはまちより汐たちくれば我家かすみ
山家集ニ　待賢門院の中納言の局に会て捨て寺恋の歌
中略
吹上に小車をつきたるとて兄弟あまたあつまりて社の頭
きすこしばかり似たり船出かと前代未聞ニ
とよめるとかや　この俤へられたるものをとおもひて社
かきつけり
あまくだる神を吹上の秋風に雲居の袖や先ひるらん
前斗ニ
あくまたりけれいかゞ西の風吹かへりたちまち
ふきけれとうたりし　下略
此家辺には住ニ
下松の茶屋　家会所より　十五丁
神宮寺屋二軒あり
是より三叉迄十二町左右共木立向ニ名所ニ見
妙見堂　右ニ有
猫石　猫のせおきたるごとき岩あり道の右ニ
有り
宝荘山　右ニ入口有り
亀遊岩　道ノ右ニ有俗のはかたりかたち大略
如下の石ニ記ス有り
瑠勒寺山　左ニ有
三昧有り
五百羅漢　左リニ有

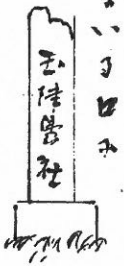
県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

鶴立島　らかんの像あり　上の松の根石の銘あり
此島より紀之井寺見ゆ　松原通りに吾妻あり
雑賀浦　吹上より雑賀までを雑賀浦と云
万葉
住の岡やどの清水に影見えて今日ふく風に波寄すらむ
　　　

石のきさげ寸くはけ、宮名変番号
陸軍前名城管の報不明
石業双柱一部損壊修復不能永仰貼明
年号不分明　備考　藤田名よめず
かたかなる文　俗小考古墓かいふ
男は女波の論い俗説引き用ゐるまたは好事は好の
用ゐ方輪辺ゆくありてゆくあるより海は亀といふ俗
より結婚ふせたり
和言の陸の古歌

茶人

云の陸小沙又ありたいかたき文　男子をやーて印刷するお願
高進



あかのうらで松の葉こかおおはれ楫かくまあるつ舟
君の陸小沙又ありたいかたき文　男子をやーて印刷するお願
高進

岩島の松原境内の板碑を左ホ乃て行き左かた側人家
の裏辺にい
枝んねこ山　俗小松つけたりといふ左ホ有山の如き大
なる岩也　山の頂より玉陸営社神いまいる口ホ
件名を簡単名と云
書よーまし又
神すりの塚　小型小町神ですしょうか
玉陸営社　陸軍前の名城管の報不明
於郵電場　千人今千骨　骨型形葬　永世固結
国君等敬千

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

玉陵島神社

古歌か

和田のはらよせこす波の玉ならぬ見にこそまかめ玉陵島かも

陸古　　経宗卿

いかはかり子の降敷み雪ならん玉陵島の松の緑を

陸古　　隆信

葉とともに子の降ちかぬたる雪やあらん玉陵島松

たをり入る山路の袖もおのかつゆけき春の夕暮

拝殿　文庫葉切り雲天いよいよ

きやら山　玉陵島こそこの山を云　聖武帝の長宮の

地なるよし

もとの宮の号名の石、出てより行は

興の宮　牛の宮ともいふ　宮の口を向羊はかり古

歌ありけれとも今に中ふ

小社なりたつたおむか　寺号の神の神興は大宝元

年造りの事ありしとや其ゆへ云号因法云

法印来通話をは思ひ人おと思ひて通ひたまひけるや

毎生明神よからぬ事おおけれ玉陵島へ神馬

を奉りけれは明神のけ前おいくつは及の宮ですか

らさぬ事と侍るやと云こと説方を大師行状記に見

たりと有る人かたりき是人を向はされ　玉陵島の神

事の時牛所へ神輿遷座ありしかこの宮をとい

ふかたりき昔は実ふ御いませしや

公任卿家の集か脱ふ出ていとおほつらんと

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

玉津島小祢宜人丸中略
かへるさの牛の客でもなれや佛はいとたうとけれ
かけまくもかしこき
公任
蜑人の乙女のりけんおもかげを思ひ出けん
和泉
雲のすむ嶺のいほりの佛かな浪の花をやうつすらん
公任
かきあつめてもたりぬ岩陰の水のみかさやそふる水の月か
伊勢
ちぎりよく すゝむる入江や
七夕
くもはこゝ足すとやいけん玉津島入江の春のあけぼの
ゆく行すゑはれいの方角か

かへ山
あきひや 二葉の巻巻名所也哥ハ下さゝせり
姓脊の三枝
古へあたりみちかけつゝまたる名所かり
紙脊山 第巻下
むかし在原業平朝臣小野か里あいてゝいとなみたりけるに雪のいとたくふりたりけるをみてとまりぬへきやうなる所かりとよみけるとかたいさるか
多武峯 いけれつゝしらかしの
公事の時爾かりといふ哥ハ要哥
拝岡 入江の奥かやけ作りかり
雪の暮 拝岡の古寺あり
秋山 秋山もさぞな山風かせ山風かせ山風かせ

あらず神社のむかし　よく大なる木のたてりて石かきなどいつれも名ある書といふ木のくちたるなど今世かきなどの大木ども立て名山かありたるからんと人毎かいひ古へりめつらしき事かり

扨法海部部聖より名字部

再中おして旅を見かへれば山かと見へて景よし向ふに名草山の紀三井寺を見る景よし再よりあかれば紀三井寺の藤作三井寺甘かり此陰に名草の陰とも陰ともいふ名所おして旨陰かり

古部

旅人はいかなる陰ぞと人のとひけれは陰つたふ名草の陰を尋ぬるまでは云ふまでもなし

紀三井寺は名草の山の半腹かあり

古部

白雲のたえまにみかけふもやな名草の山はこゝからん

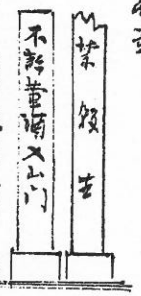
紀三井寺　人家志けくもこゝからん遊女墓多くし遊女墓多のたくひなきよ一かりきけれてばけものゝ如きよのならんか

紀三井山救国院金剛宝寺　又金剛峯寺

名たんぜい一巻ある所か

二王楼門を右か

門の内右側ちかく巻ある所か右か甚大なる銅の釜両方の



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

く石階あり千あり
見あくれはさくら志ま野きみの寺　芭蕉翁
畔有りやーくれ時の帆はの白し　堀亭翁
石のきは一二丁より上へ本堂まで數へ
五十三階四十階三十三階四十三階
以上百九十九段ありといふ（又百十階共云）かそふるふへとも云らすしたかきこと一なり書物に實に中道北
お拉有けけ一からすすしもせ
本堂南千手觀音　十一面觀音二躰也
本堂二重屋根千鳥破風あり階段四間通ふ見あ
わの御供養山名等の筆跡明松日の下え見絶ふへ
けんかたかー本堂の景きまお

南山為光上人堂　南向南へつきて
玄関　舩当三所権現宮
本堂の前のかたお
文殊堂　順神礼拝所あり
弘法大師堂　新ふ普請かかりまるる
松牛寺へ人皇四十九代光仁帝宝亀年中建立名草山の半
腹也本尊ふ千手觀音ありて又南山慶伝為光上人の作の
十一面觀音と二躰を本尊とすれ舩ども天照毒日二躰とも
厨子ふ籠奉りて長く開ラなひらく事ふー山ふ三つの法
水あり本の陣をけ法神水といひ南の陣を揚柳水といひ
水の陣を名狩水といふきへふ作を井寺山と名つくとも
かまかー餘女きたりて南山為光上人を水春ふきかへ奉

8 9 県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971　1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

りしが三年を経てかへり住ふおもて梵鐘法螺如意香壇錫杖拍板横道樹を授く依ふて興鐘唄ふ也たり生徒引けんと十ねとしてここか十為克上人咒を持して鐘を指ふふ鳴うこき也たり其時石を湧辺の杉ふまとうて鐘を強ひかうくと引あけ給ふ幸楼ふ上り氏杉を南れ杉とこうかねを乱世ふ改まり何かたへか盗さりしとて今はるいまのこりある所へ鐘杉ふり横道梅へ寺内ふあり此梅夏冬葉を変せず春ふいたりて香葉を生てるふ十為克在るくして実を結ふ此実を蒔ふ外かて生せず又敲独鈷音ふちかひて梅を倒手撞ふ事手ふる今ふ七月九日供養せす敲梅を湧辺の杉の梢ふ掛ふといふこふの梅参詣の諸人群をなふまといかに此おを梅也杉と云

延ふり紀三井寺を左ふ又て此井ふ生はおれおく和とふ右りふ名山あり其下ふ紀三井寺こふ下といふを名有ふより又くき名山の猿を追りぬけいはは下ちけらの杉也右琴浦おけ廿下村ふ見ゆ田畑屋一左りへ山辺一うちはら村　人家三つ、ゐり

出はるれて左り高山と云岡山の松ふ法及ゆく右畑中村の下駄子の宮ある家土けし越ゆれい又

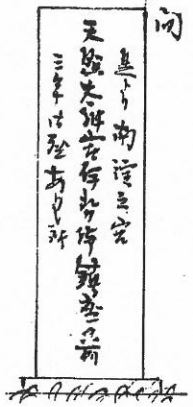
服部川　土橋長拾間幅二間

こゆれい

右側ふにり竹有

前ふ竹垣有り

此所より十八丁右琴を湧ふあり小社也



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

太神宮月讀宮坐天神の社ト云ニ
ヨリ一日前の宮の神餞はうらより上り給ふて先所の宮
お例の奉りしを重任奉の御幸ありて今の秋月村に移し
奉りしより上給の祝かりとつたへけり

琴の滝の古歌

飛鳥井雅永卿、下られし時日前宮國造方にて
くられしとも

ほころびをぬふ蓑の玉ゐとまたまことのうら風
右琴のうらの見やり左りの山四五丁又八人丁ばかり
はかり岡山の向ふ一反通せ所あり十くと岡山多し
ちりかゝの池　右の方
岡の右通り道を通り少し行ば黒江村の内より岡山の根
右かそひ行左り田相賀しそれより岡山左の方ある所を切
おしのわれは所へ入口古谷へかけ出しの古墓右あり
又山墓十ヶ所あり
左の谷へかけ半丁ほど谷といふほどの所か
あらすひくゝ也
くろそねの所　家あり　程丁餘所隔て家右より藤
白まて人家ニつゝく也
紀氏橋右の方に小名墓あり
一里塚　若山より二里の塚あり
是黒江村日ヲ村の境あり
ひかた村　家あり　此所より左淺所也より若
山より四里ほど小黒江村迄人家打二階建ニて

永正寺　浄土宗なり有しとの山かり

土橋　大小二の折長さ七間物二間
長四間物二間

土けし二つ越かれは同寺の内北の隅かと家居有しと
又土けしこつこかる左山右かし家五十軒か

名寄帳　見る文字かて名寄と書て古人のかかたといふ
しを　古額か

末社　八幡

きの浦の名とす陳かよる陳の音とまてかとはなせかくす
名寄

往宮

延宝の月かかたか陳の浦の上か秋は半をいかか淀らん
名たい村　富右り明遠家なし二階と多し

三上山　見ゆること京しかく里人ものかな

れは三上山といふはるーみかん山いかかて見へ侍らん
と答ふ

三上山の古詞

美木村か

三上山かて南海よれて月のくまなく見へけれは

大僧正隆禅

数遠き海のこやけれて三上のやまの月かけ

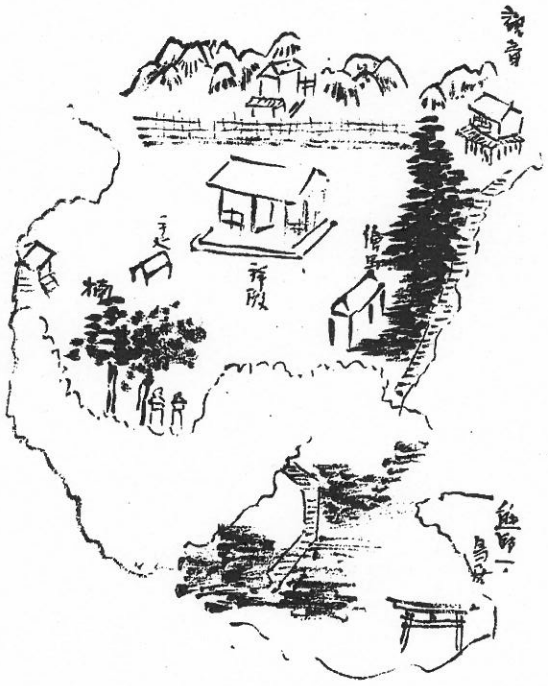
かたむ村古はかれ左りいく家右か浮堤多し宿りの人
家乏かまより着代村かつくくるり

紅大明神　手水鉢の銘あり

藤白村　加茂谷、一里半　宮有江二基半

此人家三つ、半三百多し

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971



藤白権現之図

街大明神　左かあり小宮ニテ石の
明神古はおれまて十あまりあく木の畑中か一の鳥居有
熊野一之鳥居
此所より熊野の内なりといひて年ごと新作の外荷ざ百
せうまいとか熊野遥宮あり高野材木等をはこび若
宮やしき神領あり其後新地の外かつかふ事を禁し
たまふとなり
宮より熊野の名地といふ也と宮ばし熊野と唱ふるは三
山の内社やしきおれて少一坂のぼれば左は家や右りの
藤白権現　藤白山権現とも　藤白王子ともいひ
是大王貴命を祭也別当命ゾ寿量寺と也九十九所
の王子の第一とか

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

本殿　拝殿　随身所　神馬　牛舎　幣殿　楠大木　高五拾弐尺　廻り弐丈
花山院定に侍事始記と有　今は此の如し　図左の在
手水鉢　石灯籠
なおくわしく入れ　鉢木三百余年六尊の座有　古鉢木の子孫　今も有り　石碑あるよし　なれど参拝せずして出
風雪にて日
熊野一ノ王子と云ひ　雑沙権現宮の旅所の如き又一王子と云ひ　安倍通ると雖ども多くして行れず　旅宿の託も無せずして　何けり　やれ　此王子九所の内　一ノ王子の前の西側なる
今廿一日午宮の前の西側なる

柳屋太兵衛方止宿　此家　根篠雑木よき宿也
四月十三日　湯浅を出立　おくまさ　栃又峠宿　止宿
十四日天気よく　峠を越て　若山に出たり
三月廿二日宮くもり　ありあれども　出たち
土けし　二つ越へ　暮日山へ　掛つたひか　形ち　ナハ下
せてりは　十五下
廻ったひといふ　かの半腹かこへ　ら〳〵たる道でおくといふ
所東と　峯か　近き　こゝより　右り　後ろへいふ山の　廻り道の
らといふなり
此奥か　廻ったひで　出たる所か　いつれも　毛かおし
けれいこゝかこゝけ　おくなり

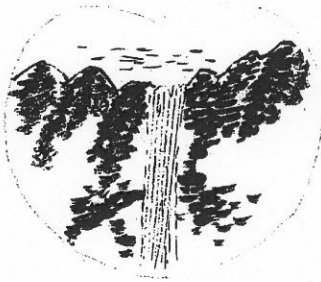
古歌

僧正　行恵

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

此峠より加茂の在地を下に見下ろせば
一望惣　若山より三里の惣地宮原へ一里半
畑つたひ九十九折の道古とあれど一石ずゝて道の傍ら岩
かど更になく有り下り坂半ば
おかげ　人家まばらや茶屋あり此所より両方へ別れ
ふり分れば両方を廿丁ずつ宮ヶ原宮ヶ原より若山
まで六、二十丁ばかり入行けり
若山　本当藩主三万石
本当の様子天狗の手紙立札あり
此所のかし　おくのつゞきれ
うら々の滝　南東に落る
岩の下びきいりたる所より滝



のこらず見るおゝかたらゝの滝と云ふなり
是より　おゝはらのつゞき橋本村へいつる
名茶谷　橋本村　人家おゝにして一里半あり
橋本の里子　村の入口一丁ばかり所に阿弥陀寺の境内ふかし
とて
土橋　長さ拾間計り深き内ふかし
入佐山　是ある土人の云白河法皇の御製とて
橋のもとに一夜ばかり斯ていますの山の月を又みるかな
是より加茂川といふ谷川ふそひ逆上り行
此加茂川の源い倉畑村の中なる山といふより出て山
ヶ村こゝへ加茂茶を通り又五ヶ村を経て海へ入とかや
此加茂谷いと古山かゝりてせまき谷なひかり橋本村一

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

二軒茶屋あり　これより左の方へ曲る　此所にて
川幅は二間ばかり　三間半はかりの石橋あり　此谷の
あいだより　かなら坂へかゝり行くなり
加茂谷　いちのつには村　家あり　人家四五ケ所あり　宮ゐせき
き谷あひより
山坂ノ王子　宮居すこし建揃あり
此茶の向よりこたひは善坂へのぼりきる　此間廿五丁
中ほどに松あり
善坂　くつかけ松　くつかけ松右の方に有
弘法大師尺形石　両度あり　此石和泉国にあり
なかり　此一社の額の所陸を頂く　此所高野の正面と
云

方便水　尺形石のならびに有
此里の右側に人家の間に弘法大師の霊水湧く　寒
暑ともに
一里塚　吾山より四里の塚也
かみら坂　峠にて村あり
こけた村　是より下り廿五丁
此峠の茶屋あり　両夫やりおふりけるまゝ　ふもとよりとも
乗ってきりしかなし　されども天気よかりければ西の海
一面ふもと陸地所沖までも見へて絶景なり
りし此山を白倉山より　橋本峠とまいふ

七曲
山家峯

西行

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

久すぶり也根原の峯々詣ずいすこく剣ありけるの土かな

是迄皆部部屋より在田郡雲原庄

牛所より少し下り又少しのぼりて

吾一里半　右ハ有漢く

雲原庄　畑村　人家多し　藁屋有り

白谷大明神

牛山の峯かすり少し行此の上を見かへりは大なる郡

石峯を見おろし下より社の見へ牛石と四国の地

も飛来りし石とかや

如来

山本峯に　又雲山ゟ

又小松杉原の峯をこえ行なるべき山鳴のこゑ

註、杉原峯は北国也

所かりさるとけるは又角牛にて見

やれかへるさ北筋を見たりけるおへ志ろしおくや

是より谷川を右折又右ホーて遠く見ちかく見て唄

つたひかすりおく道のかたはら谷の音と草木ひきく

地の如くか志はけたる所多し谷水の岸口四ヶ所こゝ

又谷川を右つたひおこゑる所二ヶ所あり

雲相嶺

牛山かんの本は在田郡おかやりておひたゝくあり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

夕すゝみ松原の岸を漕ありくもおもしろかるべし

是迄落部部屋より在田郡吉原迄

牛所より少し下り又少しのぼりて

吾一里半　左ハ有徳く

吉原在　棚杜　人家多し　茶屋有り

白谷大明神

牛山の岸ハ高く少し行たの上を見かへりハ大なる岸ハ見ゆるなり下より社の見へ申牛石と云ハ四国の地より飛まいりし石とかや

是より下りまけい

江法大師ハ此石　地蔵等二種ハ一種ハ弥陀如来ないた、きたりくつ杖のあと、いと大き



手向松牛所ハあり

此邊より下り坂く両ふれ家原人家度く見渡ハ和村糸我山マーて南西の海路一目ハ見晴さまてハなく見ゆる所あり

さるとけるハ文字ハくて見ゆるかへつて牛北筋ハ見たりけるおへ走るしおくや是より谷川を右ハ下又右ハーて遠く見ちかく見て唄つたひハ下り坂く道のかたはら谷の方と草木ひきく地の如くハ志れ行る所多し谷水の落口四ヶ所こゝ又谷川を右つたひおこゆる所二ヶ所あり

賽杜樹

牛ふいんの木ハ在田郡ハかりてありたゝいくちあり

右のはたおり 左右の山 十八てうめんの木より作本
一抽たいくの如き大木おゝよそ十抱許より十抱本より
枝ひろごり葉の木の如くおゝて葉と一指別大きおゝりの也

ふし原　美右あり道甘の内也

王子権現　右かあり

吉原左　道甘　人家繁し富家右あり　左右山遠からず

富山播磨守博治　左の山かり

そより美作迄つゞきおゝりし僧の寺かりけり善
興寺といふおもよし南方見合けるおもよりおゝりけ
れば和尚出て止めらるゝ一宿仕こゝおゝかす

今廿二日　善興寺を出発

四月十三日かへるさ漸漆を乞て雨しきりおふりけ
れば胡四の時分牛寺へ以前の僧かたより来りて枝
折の金子音物せし雨もおやみおければ出ようとす
とすゝめ給へと和尚とゞめられ一泊今日もこゝお高木
つゞりおり一雨かり雷頃より天気心よくはれける
ゆへ辞して出立道いそがしき也

三月廿三日　牛寺を出発日天気よし八十ばかり由けし
新町　富原左南村の内也　人家多く富家左多し家よ
つゞみ、のごとくニシテ赤キ

石田川　渥津へ一里半　舟渡し　二里半

吉野奥の院より流る、富原川是也川幅二十の餘あり
舟渡し

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03971

渋の坂　前後山遠かりき左に山遠く右に山の河より
海辺松原見ゆ五十丁ありまた一坂ありて川あり
三十余を渡り上りニ三丁ありき村に入る
中の条新村　人家多し宿あり村はづれ小右
傳生寺　西山派
中納言のかくれ給ふを聞て御供の人ありて一人身自ら
文つゝみて中納言像其外霊宝数ありと寺門を右に
石は諸国より
一里塚　茶山より五里の標也
中之番村　人家多し茶屋あり
稲荷社　木小右り
左右みな五十丁又ハ八十丁小見る所あり

水ノ江子　左小あり
上ノ王子　右小あり
是より糸我峠への坂行
糸我峠　上下十五丁峠小茶屋二ヶ所有
中ノ番村より此へのぼる山道傾斜みて右小谷を見
下ニ左山かそひのぼる道の左山のかたに数又ハ梅木
志けりたる所多くあり又小人物の石もまつきたる所
も多をおり　すべて小石ばらおしてけはしき所そま
かあり道ハ年々かりすてありはするがまた糸前猶行
道おほくはあり　き所もありてかけ石なき道あれ中
ほどより下ハ道あしく殊ニ下る所木の枝
志けりたる山多し谷を右小見又ハ左小見下りなく道

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

のかたけり谷のかたより木をけりたる所多しとぞ
道なおぼえたるおいあらす

糸我村古跡

いとかやまうくまきり多かこころはそそ陸千分我
兵衛道ていりかやの桜花数らすありくるまをも
いりかやまたをそめさせてかえくれる錦なり帯

庄山くたれらよし川なも

かし川村　くろ家かなからす

逆川　湯谷左より出てそれより湯谷村を経て海へ入

かし川ぬ

逆川主子　古おあり

逆川古跡

美木松

飛ちかう夜半の雲の光をさかやき川の流をいかにとも
問あたるなさ根めりたる地や逆川の流をいかにとも
いはれせん

猿陣山　ほりの跡といふ上下せい丁

左右より大きなる岩出たる所へ北山の肩あり古のか
たの使く守き山と成り見山の根を左のそひて下り行
おかおかの畑多く湯泉の所なと見ゆる左へ下りかけ
へ古か海辺松見渡かたら二三丁又のせい丁山の根
まで田畑なく見渡す下りて湯谷所ちかき所ま

一里塚　長さ十二間

土物

右両かた海五七丁か見たり十丁又ハ十二三丁山の根



しとそ中くおこの界の名高き湯と宝く
口土物あたれい湯治の地

まま田梅ひろい
白樫塔正権坊　左の山手ふ見由
湯治ち所　井関江一里
此五家在十一百軒かり二階建すくり　よのま、有あり昨
の向方へすこし入る所か
玉光山浄華寺　浄土宗
時間大日尊命を祭ふ
薬師ち堂坊
王権井ち　王権所ふあり
この井い界の中央の辺のかたばらふ有り石井筒あり
て宝くち高ふ汲つかふ井也もり　大悟の宝水王権所ふ
出はらく清冷あり一杯あれ味甘くふ俗ひ

河原崎　　初メ一丁許の町あり両側菓子まんぢうや多し

河原崎権現社

門の向ふ西かわ石の鳥居あり石燈籠二基あり此社とうろうの銘に曰

　　奉石納　　奉燈燈

此所より恒世向はかり木長一丁はかり海へ築出して真ん中迄天社弁財天あり海より参詣する事なり海より見渡すに第一湯島天神の御社の山ばかり島の形ち見渡すと見渡す入海ばかり

　　鷹島の古歌

玉葉集小弁何国ともかき島と申所の石をとりて文机の

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

造か置て待りけるか　寸許　よく
拵きて垣ネたのけんくからんとぞてかくら見たり　まの石
四月十二日かへるさよし原谷より出えきりおふ
りみれいまた盛ならねとそのこの河原しき玉石在
迄まかやとりしやよき高ね小出よき高ね小見
川原より　南向て流らん
川　　幅長さ三十三間恒さ同事
右の廣の小橋暮迄幸ひ遠家　廣の人家見ゆ此辺
廣幅より　橋ありけるよし　橋を渡りて在ての方へ　さして行
うたれ　人家まばらせ

久米路王子　三丁許り山手にあり
右山の根三四丁田畑也右山の根迄十六七丁はかり田畑
おかの村　人家多し
右山の根まて十一二丁田畑
とのむら　左右共山の根まて二三丁田畑あり
たびふ山手を右へまくるあり右に若木杜のごとく小丘けり岡の如く里根いへ川あり里を右ふしへせき迄アあけい井関川へ出る
井関川　橋有十七間はかり深し
一里塚　是山より七丁の所也

津築王子　左の方
稲荷王子　川原

いせき村　谷へ二丁　荏田川より二丁半
茶屋あり　この村をかうの井いせ山のかひの如くなるむら也
山のかひといふ山をいとの方いたをいふ
かうの井川　川幅十間さまり橋半　此河わけたりあり
一川を上り石つたひまたる所あり
かうの井村　人家多し高き所ありか逆てかしつゝ登り
谷村の水ふ土村一ありて水多し
江かさ子ふ知茶　江注大明四十二才の作と云
智樹王子
諸ノ陵王子
古墳所ふ右の方ふあり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

かうのせより麻が脊峠、咀つたひお登ること三十二丁
あり谷水のおちおい、おまた青遠近の峯嶺おほく見居
木古けるまゝあり名角石原道かーとけあーさ所も
あり加ー小道是ー
咀つたひといふは昔代の所かたー一たる通り山のも
うたんかつけたる道を行事や又林おおかき所おあり
峯のとをき所もあり俗かいふ山のへらの道也
人家すくいなおあり
一里塚　茶山より八里目塚也　此辺より都さかひのも
のーあり
是迄在田郡をうり日高郡原谷の内也
一里塚より一丁のほれへ休かり

麻が脊峠　茶屋三四軒あり
麻が脊山の古歌か
詞書か麻を多く麻が脊山か取たる処柔の嘆てきこと
僧基法師
うかりけん妻の為かせの山の名を柔てや麻をおくらん
此峠より十八丁下りて道さまうあり　此辺より
右かへる遠山嶺峰多く見谷水多口の所者木茶たる
処道も有りて原谷へ下り行
すき家原谷新田　新田は山口組の内也
原谷はまことに谷合あり　右右山の根まて一丁二丁宛
き所へ三十軒もの内かへ家あり　山口屋吟けも世組中
へら組下組とて三組かおれたるおかり谷内有りてそ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

松が沼ともく所あり又小祠でくたく見る所も多く大
たい左の山の根下を五町くばかり谷の向一里餘といふ
也先

原谷山口能　牛谷の向有る一五ヶ迄とも同し
金峰原迄
中能　小松有く一里廿四丁

すさまの王子
国常の王子　左ハ有り
一里餘　若山より九里の餘あり
左の側小祠明王子の石燈籠並ハ
鳥居松　見事なる　二本の松地
明日の社ハ八九丁上の峯ニあり此の社のほとりハ水

宮居といふ　二ツの岩穴あり　此穴より　おりく名吹ハ
こゝより魔所ありとて中の時迄ハ皆人おそれて家
ハのほかへこの穴へ入ず　時ハたちまち大
風おこりてあさはびありと　水穴ハ雨いたくふり出てあ
さはびありとて　みだりにこの穴へ雨ごひのた
いきはめて生志ず一切りとそ

今廿三日晴国寺出て終日天気よくこの鳥居峠の前ある
くり至雪助方此前さくさ数ハ今板倉

三月廿四日　天気よく出立
下能　牛川ホテルまたと云小名有り
四月十一日印南出立て雨大ふり十町一下能の茶の谷
助右衛門方正前し迄雨ふりはれと出立たり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

この谷合より東北の方に見ゆる山と谷の間小
家あり
原谷より道脇寺日吉坂を上り峠にて又きりべの道
まいて平地也
高家在　藤次寺と云くわし　人家多し茶店有り　左右山ひき
く畑あり
同在　はまはら村　人家宿多し　右山の根也　遠く田畑ひろ
し左山ちかく林木茂りたる間の根おそひちかく所々あ
り
稚ノ王子　左ヤシ　人所
八幡宮の森
ふかふの右のかたはるかに二王山の間より富辺村を

ら見ゆ
二王山　此山ハ湯川氏春の城跡とて　富遠の松原は
るかに見ゆ　左右ふた川の山々いふかぎり
一里塚　富山より指宝の塚也
高家在　いはらき村　人家多く家あり古木の大池あり
寺家王子
左ヤあり
この村のはづれ小右側あたらしき茶屋所あり仏像ど安
置し老人一人あり隠居ふたつらひたりと云
上富木村　里人とびやすと唱ふ
近辺地蔵　弘法大師作　左ハ一丁許り入る
大山王子稚現　左山ぎわにあり
下富木村　人家多し茶店あり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

松ノ懸茶屋　辻堂
左川あり　　弘言輪村之ゆ一や
富士王子　　左ゟ右り此王子善道寺権現と云ふ
あらおきの外さやあり宮居ゟ一
左り木標石有

右　鎧掛の松東道
左　道明寺道

すくゟ行ひく
き山の麓左の
そひ行
日野久家多一
ゟ左ゟ茶屋家
あり

古道成寺道ニ行日の中左ゟ蛇塚ゟ石ゟ
銘ゟ仕あり



道明寺ゟ禁　鐘着ゟ　宿茶屋あり

是ゟり小松原
ゝ入る上野ゝ
この十七丁
即南ゝ
三里十六丁
野並家呑よ
一
有茶屋根多
し

文章山道明寺　日高川原ゟ三十丁
ひくき山ゟ半腹あり
この道明寺ゝ参り建つたひゟ日高川ゝ
行時ゝ茶街道ゟ入りて道ちかし一
つゝ又あかず又本街道ゝ出ゟ時ゝ三丁
ばかりまわりあるコトー
門前石階六十二段登れゟ
二王門　楼門也　内ゝ入れば古ゟ
古珍塚　牛ろしつのかたゟ
鐘楼跡　二ヶ所あり
三重塔　右ゟあり
本堂　十一面観音　秘仏日光月光

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

牛外路この寺かきしるしまさりたる
とし

人皇四十二代文武天皇勅願ありて大宝年中
草創ありし大臣道明公参行也
その頃なくあしく夢るかな往昔いかのはと
りかえ夫婦の番人あり日夜法を守りて
今日を送りけるが海中より光明かがやく
かり異香かおりうるわしきをお海底よりありけ
りしかば一ふしぎの剛洋捨金の十一両観
音菩薩のりとりおとりかけありからせ給ひ
しかば夫婦奇異の思ひをなし科家かもり
参り事の仔細を供養し奉るある夜の霊夢かも

よくきけ我いか神仏治世界の聖意かり一切
衆生を化度せん為ふ仏土へあたりたり我
を信せよ所願成就給ふべしと告給ふ夢
中かから答て申さく聖有仰ふかか我中ふ
一人の娘ありかたちうるわしく能くいかんを
ふかとかく住へと合掌すれへけ夢
さめたり翌日娘のかたちを見れかせかた
くひきて言くとかりけりを夫婦よろこ
ふ限りあらす此由裏の新ふ筆の業とひ
たるよりあかき筆ちみさかりたるを天皇
聞召して不思議ふたとふかくまた
長き筆整のあらんとおぼしめして我頭ふ表

一筆啓
春山くり十
一里の塚や
ふし里時ず
行

右ホ
その村そのらも
人家あり五
七十ホ見ル

女ありくへ一ツ石に腰をおろすなくさめ
をれ一ツさるほど年若き女たくさんあつ
りしかいそぎ川表おもてされ皇吉と申
ふ年頃廿四五の事なれバ一かハ絵を乞ふ
公を書とて七堂伽藍を描き一本二
文の半紙をさゝげ腕をふるて一すい歩行
等絵をこめ書りしを大ニ賞美して今ハ僅かに一里一寺のこりしかのこの
の絵ハ八幡山のふもとの海士の玉ひろ
ひの事より
享和の年号より九千八十年ニかゝれり錯誤
の由来ハ人皇五十代桓武天皇延長六年中

この村ホ
里俗物あり
ゆへの家の
名ホーテ
俗称とよふ
又より川は
たゝ七三ホ
下堤ぶかみ
い

二十八月也由来ハ世の人のおもひおく丈ケ
かれハ書す
青銅百文ホて由来ハ門前ニ出名たん
下りすくの行方のかたハ見えい
八幡山 此書ホ
海士玉子 有ト
安徳山玉子村ハなり安田村ホ有ケ
ふもちろん 人家多ー
土堤を踏て右へまかりホ日吉川の端へ出ケ
るか堤つたひホ川の下ゐるあまたの
あたー帯へまた此辺五ホ村ホ有也ホ
村有ともまゐ見やりてゐる

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03971

日吉川　印南ノ三里
あまたの流し　川幅二十餘有
この日吉川の東の岸より西へ湾入又東井東宮代西
お海井都隊納井上郡川下郡川上山内の庄の十一ヶ
村を経深北三十里をうねって海へ入という
異根集　　蔵　寺元
その日吉川よりけぶり多く起ぬる松、
玉置権正姉路の山　川向ひの左りおり
舟渡しありたれば
おまた井　茶店あり　人家多し　すべて左の岡
を茶湾の山というおくお無地梅野村あり
又よりおりをこえれば

かたほや井　人家多し富有り
塩谷王子
この王子の若宮皇人が昔井かくし笑を忘れられたし
皇人の王子というお社ありといたしかとてそれさへ
ふかいとまおらやうしや
古歌
千部　　後三条院大位
おろす事をかおおふる律なれば塩谷お話子忘てまりけり
千里百番　　雅成　親王
沖津風塩焼浦をゆかぶのぼりてやらは夕雲ぬりかぬ
中務卿親王
ことばけん塩やの里ホ子も海士も我こそかきあやおりを

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

比井の岬みや
　行けども行けどもかく川端おその所々あり
　　　

上郡至野島村　いまみち一里半日市より一里人家多し道の左右垣の如く草木こけりたる所こゝかしこ有又弥生の畑あり左海近し左い山近し其より猿辺の松はらへ出又かけをゆこ所有り南より西へまけりて茶海見わたかそれより又田村の人家多き所こおかりて

四人塚と云有　かれと又きかて過ぬ

清姫の草履塚左畑中にあり

岩木録あり



十三塚

おかしい十三あり　とかや今ハ五つ六つはかり有り阿波の山伏とやらんか十三く無まへ結てんとて海賊の当敗されたり塚とかや

道の両側垣の如く草木おけりてその外こゝ畑有り片所を過れい

上野至上野村　市街一里　人家三倍く多し

二ヶ所有り富家多有り

清姫こゝにかけ石　道の傍左ふあり　くぼめる石有り

さゝれきのけ　小き松植有り

海辺へ出る事二筋有り田畑こゝかこゝか有道の両側垣の如く出けりたる所まゝ有り又かた側垣の如く草木出けりたる所多くその外ハすくて田畑有り右海左山ふきく近しを左畑の景か

一里塚　若山へ十三里の塚也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03971

上野を梅井村　人家まばらに而茶屋有り人家の向ふ海辺松原遠く見わたす所まで有りたゝみ辺迄一里余有り

上野三千社

上を室積井村　人家まばらに而海の如く青く海辺へ十町の内ゆきとゞく道に有り左右の如く樹木生ひ茂りたる所まで有り其外て山辺に住一田畑有左の岡松等有たるまゝ二十丁ばかり行く所左いかの如くや

左へ海南へ廻り込て迫りて来る松原少し有の内左へ相有る所なき海辺に出て右左の方へ行くも皆印南を通りやうに江戸へつくまてすべて印南の内

らとい二十丁

印南浦　宿あり多く生たり左へ山より遠くなり

此て三子社

一お文の跡　右目へ半里許行二三里　百軒多く家居有り

左へ右海辺に左へ山迫りて十丁ばかの半ば

松林　長十七八間幅一間

〃幣宮　左へ見ゆ

今世四日陸日天気よく夕かたまれかけ北

北三井寺屋善兵衛方止宿一人も無之候

四月十日前部町出立ゟ此時に相成候雨ふりけれ共能木屋彦治郎方ゟ止宿仕候

三月廿五日天気よく出立　夫より通一篤宮と被申候て、

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

上下十六目ばをひたり上下のすの二人名い勢市岩助
や摩りの時牛所おて右二人番美阿でといのび基だり
てかや一ゆ勝ふつ、まて
のこまり坂　上下二下ばかりや牛指こ一て円所人宮あ
り出ロふ
光川王子社
光川指　長三向ばかり中一切
高の玉ま社　、ケー指ざこ一て
一星塚　吾山より十四星
長とり、ん下の向をい岡松ま中布淳辺松原森沼の
入場やさ、すい文の海や
芸語君淳一業色す

切目三左　むかーかきりめと訓やとや
星指　上下二下年ばかりや
この坂の向ふかきりて宝星の加こかーてうつくーま
名原ゆ坂の中ふ
切目王稲王子社　古ふ古り
和平
万葉つこ
きりめ坂行かる坂の頂雪ばかたる妹ふおいすらん
き本坂
見阪せかきりめの山とかえつ秋陣の星い春めきれけ象
後鳥羽院熊野詣切目王ふおい御会
古近衛大将通親

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

右目山迄の距五拾壱丁餘迄の間に峯の五社
きりめ山といふ　左の山なり
きりべ村　人家五拾軒余有り
浄厳院　後当時院建にて手能出来寺社の物なり
きりべ川　舟渡し川幅弐丁許り
長田村　人家五拾軒余迄し左ひくま山迄し
五の木村　五人えんのお坂といふ
五の木村　坂中の茶あり　左の小坂まで田畑家々見
浄土所あり　の上に上る
中山三子社　坂の上にあり
是より中山といふ谷合へ下る

一里塚　吾山より十五丁　谷合より此ほどより下る所
〃
竹が谷　家あり　此辺竹林多数あり　その竹こゝもと
りて十ぶんにはあれど　西条代や
西条代村
　　名代古跡碑　　猫頭昭
来代の清流ふすまの事かけこゝにかゝれる事と見えてかゝる
清
陸尺二人にて二挺といさみ来代の清水をくみ下る事
等
岩代のきよみ水かけ等ふりて用ひ又とりわけ清
き川水也

行ま、今〳〵夜と、岩代の国のかやねの松ますけん

8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03971 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

おさまるおさとの字の月夜公室ホ走らをふらぬ走らを
指遠祝言又祝指遠書　詰おそ輔

万代をかぞへんよろひ組の田の千草の字の字形かりけり

さとうねりさこそ組つたひおかたくら陸このわ
る也組つたひとい字仲山の所ホ出るし望たうねり
とい係主おさ二十三十あるひいさ二十はかりけけ
しかうね冬り右る板をいふるり代おくみうねり
ようまたる所ります　あるせんくかく心祭たれふへし

一里塚　笠山より　十六里の塚也

かたくら峠　みかべ陸へ八十景名あり板屋峯とそこの
景色より南の景色一目ホ見る日若ホ桜の花七枝あり中

ホとらのを、あけ江のへ名前ちと云
そより組つたひ参つたひホおして下り又少しの字事
八十ホおして又かべ峠ホいたる其間ち南海を見はらし
富田てはるかホ見ホ

南部境　南部一羊宝　菜名あり雪すると見ホ

石地蔵尊　同所ホあり

雪ホ千里の深道ホ石あり下りち多く左右より谷田畑
あり

南部領ち内山村　人家すこし

みかべ川　川幅二十の餘あり　細き板はし二十間
計ありて川真を行参へ上る雪ホ三間はかり板はしあ
り雪ち水ちさはい舟渡しも又水ちい止るあり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

けやき樹　長三間物を囲　あたり
南部三千社　をこゝて汁入る祈
けさと　　町並中家より南部の供僧ら
南部と新町　　田辺に二里
この新町に有名の茅葺也町並よく家あり大道広
くあり
峠子社あり
四月九日三柏川七ツかへるさ支度よく此新町井の
宮の前なる南側田中屋佐助方に止宿せ一ばいまで宿かり
り
此町大道未曾有と云ふ夜に向て静かく也
明日おれて呉呉といふ方々人家あり左右辺松原也

又左田畑廣く見ゆ吉たいかおもて行いたるか麓き松
ばらありて社有奈島明神の祈祷所ありと云奈島明神
の門迄二あり
はるた村　　すべて南部領也
右に海辺松原あり半町はかり松原なき所より南の着
海を見添せいきしより十八丁はかりか奈留といふ郷
あり社有
此郷海原墓といひて馬をはふる方あり馬とおかと
交合する時に名馬を生ずとや
奈島大明神
此島の明神ハ南部領の氏名郎
美濃原和郎

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

みる。海辺かぞえもおかまる釣舟を見て帰りこん

明石県

海人や沖間をおけて所の海の数かのかたおいそかつむらん

右和歌左人家の西通れい小流あり

一里塚　若山より十七里の塚也

此塚の松へ枝たれいと見事かるふりよき大木也

枝村の左右ふりあり枝は一方に伸れい左右木茂の為所人家多くあり過て又枝は一筋つゞき枝

かしの枝多り

古い岡松木ふけり左畑黄こ見る変なく行い谷合なり入ゆく岡を切通しあり右はおの松ふけりた

り岡の上と所々あり左へ谷かて左へ谷の男地あり夫

をへたて小川あり此向ふ枝は一ヶ所此谷を下りく

れい塚川といふへ出る是を南辺より也海田辺まる

村三軒村まて一筋道也

塚川　枝は一ありかり川也

南部在塚より　陰ま塚海といふ事ふ是ま南部海也海ふ

多くをたり

左岸の上ま人家多一塚村と云

池茶室　此村ふあり

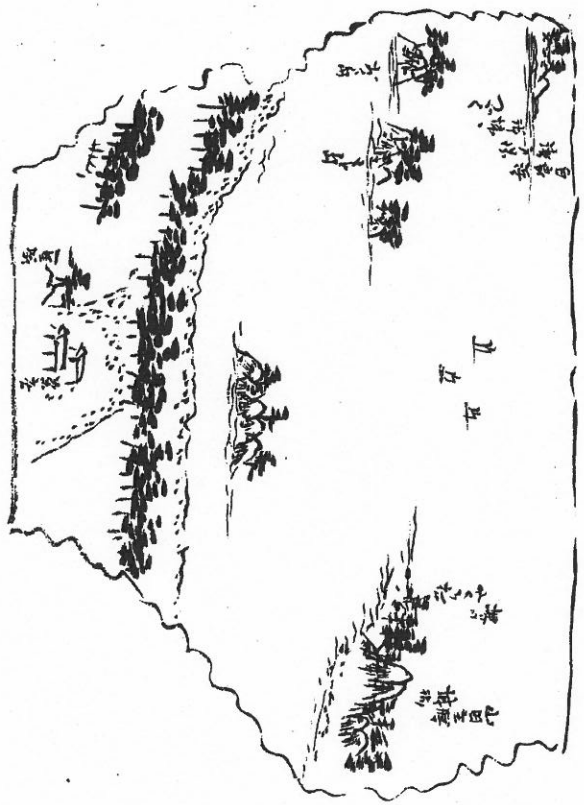
袖すりの石　道のかたはら左右ふあり此石を都の塔

といふ故ふ袖海の名あり

是迄九十新是ま岩城

是より　右へ南海ふして左海沿つたれ道かり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971



はや浦　　はまもり多く生たり

日新小名いばら左の上に漁師人家多し

日松ばら小ヒ小松ばり有右松の下に戎社あり海

向ふて二社あり是より人家多し過ルの左に女トまか

ハい左ら［redacted］井本か川あり

板月　　長サ六向物出又許

はし橋ぜ天ホ作りたり右へ渡りし所て右へまハル

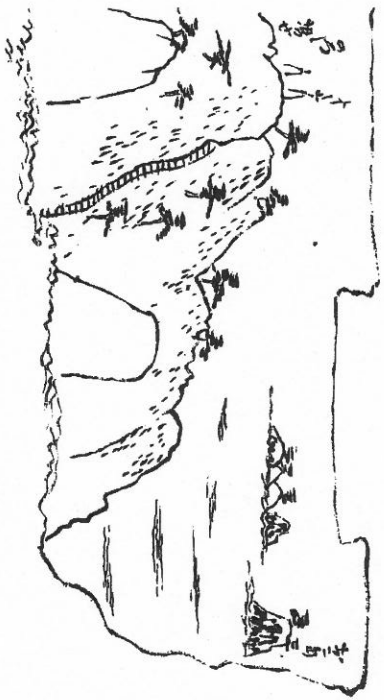
左ホ至やあり水川端ホ来ありか古く社あり

是一王子権現

実ら左へまわりすくホおく人家ヒ続きたり

はや新村　　立つゝきたり人家せはかり右はや海辺

松ホ近ー左岡山あり田畑左右ともホあり



一里塚　　若山より十八里の塚也

此一里塚の外に宮本筆捨松といへるあり。ふるはなれてかなり高き松にて、ふもとより枝さしかはりて、ふるき松なり。一時に伴屋ノ真主宮ありて大ふるこひ基にて、ふるきあとかとくはしくなりゆく時うつりかはれとも、いとおしくおもひ給ふ。名ごりおしみけるこのはなれたる葉よ　西南の塗海や見渡す景色よし　四国地ふ見ゆ

白良の浜古寺　　平美臣

ふるかの教ともんかの聞ふたらの浦みつめる基砂を

この一里塚の所より和歌一ノ浦有生けるかて右のか

たいその奥や
牛岩の下でくりて七曲り過ぎりたの方い猿生山佐
かよろづ山といふ猿塚ありて
ふいの峯ちら人時々傍へかり家より新宮の辺近しこ
この山かのろ一場でかまくたり
峯山、峯をつくるや牛峠過れい田辺の門や牛の奥迄
これ大い阪なり岡山ちかし
板屋　共二向こおる
牛板屋一前田か村といふよ一阪土人おたりま
牛外お蔭こりや一といるおるよ一ふれと美と当こす。
一て過ぎ
あやこ島　神楽一切　おのく右お有り

御所谷　往白河院御膳所石おのく左お有り
一西の谷
牛辺阪土の子板人子鍛をそふ
右阪辺村家一丁余の河有り家より田辺へ入れい新宮
まで々阪辺へ七ツ事なし
江川　東西の岸や西側人家立続大道ホ一丁余寺を多
く立寸や家へ行い川のはたへ出るそこを右北へまや
ゴ角お
新芽寺　前句せかへ後き東向お
浄恩寺　浄土宗お上有り
西方寺　同宗
牛宇の前お、あたる大ホの松有り

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

大村 ㊂三十五町　小栃 ㊂八町
中一町　中一町
はせ 葉いわたれい 田辺の眺や

田辺と所　棚細工名物

家居す　人福君山かおとらオよき宿あり 栃より立ち
本所を行かい 少し曲りて 葉い行い長吹といる
今廿五日印南を出たて 高長所

祈し 表や 甚兵衛方 此宿よき宿なりが 勿 投宿
仲宿の 隣かや 中 高木棚細工を 調い 再び 離
はい のはたり

田辺 旅を錦江橋 旅を 安藤 常力
高か 着いて 日暮るい 和有けれい 今熊野と云か 指
す東南六七丁あり

十二所権現　号雑劇社　寵合社とも云
佐か 今熊野と云社頭美麗かして 実造新宮みたとし 門
高五間両脇二十はかり 松はらかして かい 里す

別当大福院　末社共略す

此社の 源宇合殿の時別当湛勇祖前かて 自筆て源氏と
し 絵雑を 宇実と 集めて 寵合をまして 源宇の勝負を 古
ひし 所也 宇実物語より出 仲源勇の父い 熊野の別当 娘
六条判官為義の女也 静寵 源勇の子かる 中い 親属た
るをいて 出て 為経か仕い 郎功を 郎たるとかい 今の
大納陵い 源勇の 末孫かる 今か 年寄所持の 道具か
よりておる す

此社田外に 大五七道あり

大辺路道　　おはくちの字を書みていふ
此大辺ち道ハ海つたひ街道ハかりて雑所多く不自由なる道のよし
古跡熊道ハ小辺ちとそおり下の村のおくより左の道をいふ
三里おくや　本海道ハ中辺ち道といふや
三月廿七日出立陰日天気よし
栗ハ生て栗ハおく三四丁ゆけん
下萬呂村　　街道の人家あり　左山の根迄四五丁ゆく
田畑ひろし山の根ハ人家多くあり　右ひくき山ハ松生けりたる所の磯かそひおく
八幡宮　　本ハ鳥居
一里塚　　右山より十九里の塚あり

紫雲寺かけ松　左右中ハあり
是より栗ハ行ハ海こ曲る所左ハ大池あり左りハ
牛馬天王社　　朱鳥居石階あり
出萬呂村　　人家ハ一里斗家あり
上萬呂村　　人家ハなし
茶屋あり目薬ありとてからすみといふものを売掛目
拾匁ほし傍ら目拓銅石墓ハおらす奥歯ハおらす盛中
よし出るよし
古岡山ハそひ行ハ多し　ひたりハひきし山の根まて田
畑あり
田代明神　　左ハ三てはいりハ畑へたてハあり
左りハそひまき松山の如き岩のある所まて通り過

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

れい左右とも畑の所三栖川のあたり所也

下三栖川　川幅大略弐間一尺あり
両岸かた田畑也流れ下おゐ土手を行そひ上の水
川迄一里あり之川上ゟ又あたるせこの川まかり
てまかるゝかへ一ツあり

下三栖村　人家多し
三栖山　東南にあり
八上王子　小岡左側村といふ所の中に有ゟ又ゝ山
のつゝきや
山家集に無常へ参り侍りけるに八上の王子の花さ
かりに雨白かりけれゝ社の壁に
西行法師

待きつゝ八上の花をおけふ見てすぎうき山のかひ
上みすゝ迄左右ふひくき山つゝきたりそれと遠山ハ低
て見えす
左ゝ山の根まて二十三丁田畑有て左ゝ山の根おそひ
おく所多し
一社　王子社　鮎川王子社
此二ツの王子ゝ街道の外にあるゆへ一里人かたりき
一里塚　是ゟ山ゟ世里の所也
中三栖村　茶屋あり
左ゝ山の根迄田畑有り右りハひくき山の根有り人家
まはらや村はつれ又川あり
上三栖村　此六向より川かり芦村ゝ二里半汐陳坂江一里半十四

下川の西おひ田畑あり
四月九日かへるさの雨ふり降きていまた村村
わらす里人出きたりて川中かおり色四五人ありて
おく負てわたしたり里俗の大井川をやらんとも
いめつらしく思ひてみるくこわたのきーかつく上下
八人苔物等おて賃銭二百文とりたり
上三箇村　人家を傳たる所まれにてまばら
村の口左右大榎あり
一念大明神
おしゆき右人家の向より竿下計入る所ホ
遠本願寺　小壹あり
此あたり悩二天立すはかりおて一向係おつる陰かルど
其ほとりおさくして見るほとの所ホおらホ
土けーニ足あたり是左のみすれ、多くホ侯や
大将軍村　右に森あり
この村の下みちより北方へ地方に中ほとより上へ
右山の根をそひて左の山まで一二丁谷川畑かとをへ
たて、人家あり
四月七日雨ふり雨ふりて午後迄汐足除かとおて
川筋の外ふりーでやふりー昼おたのき来て上の出口植
口屋右八方止箱ホ
翌四月八日晴時々より陰昨日かと三箇月振水ホけ
れハ陰る事おりて延留し翌日よく天気よく出立三箇月へ出口
日ヶ天気よく出立三箇月へ出口

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

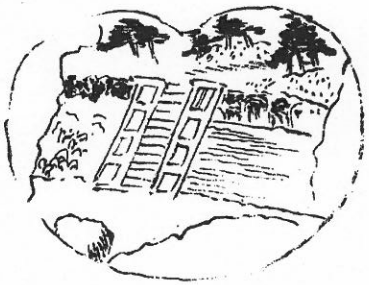
牛三頭許り長谷を越し登りゆく石原かれとさまざま道
あり小さき谷ある坂中より一里許二ヶ所あり
おかみ坂
長屋村　坂中より人家多し
一里塚　茶山より七丁
坦つたるみのほりゆく道の傍ら谷の方に長屋の
一本松といふあり
此辺より左の所見れば山の向より田辺の町家海辺
見ゆるかの如くのぼり行けば
長屋の三本松　此松より三町餘あり
この木かげに茶き店あり休むべき大なる松ありて
家ゐ茶みせもあり一休み合いかし

登り来し後を見かへれば海一面に見ゆ富田川なと見る
富田川　芦川筋野川の末真砂川の下あり
是より沙見峠まで二十三丁四五丁ゆく上り下りの
みなり去ばし谷水の落口を踏む事六度あり
中に林ある峠といふあり其所より茶屋ありしとや
此長屋坂にて七まがりと八まがりてゆく事多しと
曲り目に時雨ありといふ此向陰まで一里塚あり
一里塚　茶山より七丁の塚也
おかびの山より右に見て廻つたるみのほり
沙見峠　芦村へ下り三十六丁
後の original 一面に見ゆる帰るさの景ハ此裏にて雨直軸を

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

かーたり峠より下りへ廣野坂という
廣野坂　下りは小石原にて道あるし峠つたへみ
くたつ坂中み
廣野村　人家まばらにて茶屋あり富くすれとも
またまばらの谷の奥み松樹かたく所ありけ外松樹たく所い雪を山み多く有よりてうつくしくこしらへたる様みつめて茅ひ竹すき事まで見うけたり富より
谷り、下る
谷り　谷出川を云急流あり
すき蛭草夜なきの石　橋の詠かあり
日朝きの橋
けーの下たりを見おろしかけ見の岡といたて一とるか

くーてあすこ
急流岩打水音すし
澄れい川底かひ少しゆく
おみ
一里塚　若山より廿三
里の塚也
けー白ひの川筋を行左山
の裾也少し左りへまかる所ありこゝみ芝川の流れ
廣東川へ入るこゝまでまかり芝川を右みして行き芝
村て入る
芝村　古屋二三十十文ぬ、一里半近家二三百
此村より　十丈除まての一里半ハ十三四丁ちかし



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971



この外黒すじといふ峯の姫みて数毎おかこひよそめいと寄寒かり

今廿七日天気はよくれ甘茶川の板ばし一かりの右側

陰子至当へ方止宿を泉七分板屋

前後左右山迫かいす

今宵のおもしろきはいまあたりへすべて疎薬といふ草のおいたくおそれ中にかきをかみたらんよのあるは山おろし吾をさつひとて其用お入らしお牛ひき一ぬかみたるくありから迄をたのみ命拾さやしお更語頼まといへともちかよる事おしのみくくのものおとい所の走おもふ人なきて基かりやへるげ入て迄よくおけかへう右ひいみちのるおばすし古し宮をや宮お猴猪といふものおりいかさの吾を好みよくおりて来る事おりはたして逢迄の内おかこか餌食をなすといかや弱かく日たつとも寸くおフ左帰る事あ一所陰子夜の子ねすでお出やまこおおひたりしか

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

四里上ったの田辺といふ小さき村にて夜に入
移って養生させ明朝なほ此所のおらけ
にて百日ばかり湯へつけ其後診治薬をとらせて我家
へ帰らしむべし中おのよのやさしかくの如しまして順
神接人の此やさあり時二里を二里ずついとはせたかひか
たらせあひせひくお番でおーて送るとや外ふせて
きいたせーかた事いたしかたかわさりしや
四月六日曇此朝より雨ふりとげていふおいおと
暁より夕方のおそふりけり日ト夕陽ちかけれいもの
雷激ふ雨やむ翌七日雨ふりしきり昼後迄おり又
降るとかいふことか事物をまかーたり
三月廿七日天気よく出立

芦川(つづり也)おかしい、菜物のとこーとや
投猪　投網あり初たれい
旧林ホーて人寄多し
此辺より有こかく雪日ふかり雪ふの二尺も積るよーナ
二三丁ゆくより日ばかり銀の山といふ所あって其山かた
いるいくばりの石とゝ切り奥家衆いまた来ぬ時
ふ女無きゆえまうてんとてその雪のなるたふまでを入
雪いふよう此子運ぶなし、荷物ばんまた春すへレ
とて其身は無理へそうて後ひーかに此雪の中上より
乳おかれ居ふまのはおそいく又猿猪ホ迎雪穴の外ホ
て守り居りしとや此の無理へまいでんとや
さわりおって道よりふーおかみてやつの後ひーとや

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

所を秩拝といふ名あり又この山れ並の三谷峯とて
焼塔ある山れ志ばくり等か三度宮を建ふとあり此登路
ふすくて笹深多けれと此山の外に峯と一谷ありと覚
人かたりき

此並れより原坂登りゆく並より石原迄悪し

原坂　但つたふ等つ石ある登り行せ四十行ゝ杉の木
ふいさゝかあり

熊野権現　森杉の大木あり

宮原村　坂中や人家多一是より十丈ばかりニ十丁
後鳥羽院熊野御幸の時宿の庄王子の御名か
今月照村

同晴宇通方

寺原村等り右月かけ千年のねぢてら村なりけり
一里塚　若山より廿四里の塚也十丈ばかり也の向れ村
志たいふ登りゆけい右隣峰多く見ゴ所あり道二つか
わかれあり左のかた登る道い本海道なれと難所のよ
しとふ新道ホーて通せまれと十のれつまたい平
地なり但道ホみそひく左ふ谷を見下しゝ十丈ばかり
て行峠より三四十ごとたかし本道とひとつふかゴ
十丈峠　大坂峠ゝ半里　四五軒茶屋あり則右也右
がはもよらかふ見ゆる茶屋かやすらふこの茶屋の茶
ふ猿一疋つなきおり
大門王子　峠の左茶屋のほとりふあり
是より下らす但つたふ等つたひかの字り行そひつた

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

ひの山のかたも若のかたも道の左右松木茂りたる
所多し峯つたひの所いさきむら所々あり左右遠近
の峯背をおほくとりすくていい一道なり

一里塚　右のかた　廿五里の塚也　十丈時より　大坂時
まての間かあり

大坂峠　近露川より一里　茶屋一軒あり高野杉の巨
木あり
此辺より左右遠近の峯数多く眼下に見くだす若の
海をまた近く望こゝろよく数多く見下す
所々一宇より行方の吉野村の中の小社あり
大坂王子社
峠より八丁目に茶屋あり　そこいつたん下りあこう古





四丁下つて、のうれり二つ越して又三四丁許のぼれ
ばおり峠やすこしまたあり

一里塚　吉山より　廿六里の塚也

ばおり峠
のぼり三四丁下りより近露川まで七八丁あり峠より
むこふに高野山陰御座拝とて有り左り本茶屋あり
それより茶屋といふ

御座拝の図

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

住吉の名木おおき垣小堤の堤おおきすき春をみせく垣
おりかみうの垣へこいかこのみをみおこもりいつ
れも春のおれぜる当の垣かり

名山陰この茶店お都休みおりう御休所ともよりる
お所著おかりけれへ志ばおおりて春こやお所はよ
りおかきけのおかれはれへ是へ血か雲かとの俗いせ
けるより近雲とへふ点の名おり又坂名をおりたれへ
けおり陰といふ名おりと家か茶店のちーかたり
き雲よりセけおりおれへ杉おの陰ふかき所おりそ
こより近雲川へいつる

ちかつお川　江東おり　歌甲の筆並像

牛近雲川の上へ唐見川と云ちへおたお川といふ

川幅四十間はかり板けへこおたのもーみて七間は
かりあたる水常おりよりおほき時へ毎年一おりこおを
よりおかたのもー、大洞乃陰ー右ら側みへたひそあ
たすや云小みてへとまるや川流れへ

近雲村　　霜茶屋多ー　人家多くまはらや　又三ケ村
村方御立会ひたる所ー右ら通や
牛村七ーつへこたいおのぼり行かたやたす山へ抱お
陰たる村おり一ケばかり行所お
近雲主又村　　社の外ー山おらぶきや
この村のけすれお茶屋おり近雲と路中の境目といふ
善美加の名物とおり

鳴出村　　鳴川より二里　　人家まはらふーて家多ーは

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

峯の向一里ありといふ長き坂あり左右谷を見下して
り山の頂かなる里あり近き辺中共ふ大抵平地かして
所をおて少しづゝ登り行くと
唐甘き実　　左の森の陰かあり
すべて熊野かゝ名僧の来申かと道の傍かに上かたの
地蔵の如くなり彫かゝ名前かにり年又ゝ文字なと彫
たるあり
今廿七日延引せて天気よく
午前四側中春景明方止宿を発七ツ頃着
四月三日帰さの節い湯の峯なる七枚川より大雨
ふり出かに所なちかくより七ツけれて夕くれかたこの
宿かやとり翌六日　廿七両十終日ふるかあらずけく
夕方の如くなるまゝ延引かにりし也
三月廿八日出立之条十一ツ行
叶滝原王子
此王子いたり森の陰より石段かにり年ありて神社あり
宝ゞ造おい
奥斗者衛権撰
道の傍右かあり
池中の清水
松の陰少し下かあり
郵中の一本松
大なる榊木や
吉ゝ王子
一本松の下かあり
笑より
こだ石かに松ありかく
松の木牧
少しのこりあり也
こひろ坂
道ばかりかに石多けれと雑木なし

此辺の山すべて樹木まれなり此峠を
廣王子権現
此道すべて山のすかたあらかなり此所より熊
野辺の山のすがたすこし谷水のをち口三四ヶ所に
して難渋のこと下りおくや

無瀬川　板はし長二間餘幅五尺
あたりにすくかあらし峠一の下り
まど三峠　くつ峠とも云
川より此所へ八十かけ石はら通迄くけはし、板中ゟ
一里塚　若山より廿八里の塚也
あらし峠より下りを婦坂といふ
婦坂　下り八十かけ石原迄あるし唱つたひふ

下る下れば板川也

板の川　茶屋あり茶有り、かけ出しよし
四月五日かくるさの折に実よりタをの如くいとあき
りの由ふる
此所かて同し程はの風瑞応寺寺屋といふか迄あき
ら二軒茶屋まて つれたちて有く候また那智山みて出
おひ三社四しに折ふやとる

文政　登りは二十や此下りのほり二ツの坂を
文婦坂と云也板の川よりかけ石原道あるくしてはは
しき所あり唱つたひふか十二十の坂をは峠の峠の登りかか
社あり

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

客神王子　大木の陰ありて小社あり　祓物して
ひらけおく　左右傍のかて　ひ抜さへ　抜しても　しばよ
りて下りを客神坂という　此辺茶屋あり　大抜の傍ありや
すらふ

宗像坂　湯川へ廿四丁

うたみ　　俗名祖母

その山ふもと一宗雅斎なんどのそふることころでやれをいふ
湯川へ廿四丁下るに人家あり　ここより木ふかき所を
廻つたかみ下れに右左山せまり　松並木　会たる此
茶かり　枝茶行道をうち渡りたれいまかけしてすき
通るなり　行よるく　心はそー此間十六丁ありて茶りを
左かー又右かー右木五本かりたる松を四り所越

へ道へ大ていー平地ありやうくくたりて湯川へ出る
一里坂　是山より廿八里の坂也　両方とも松なり
湯川のむこうたまかる茶かあり
湯川　茶屋あり　松長四間幅一間程わたれり
みこー峠へかり下れかみへ一里
道湯川村
土人湯川とはかりよる　かべわり峠へ六十五丁
湯峯へ二里半　峯宝へ三里
人家多く家業有り　此村より長三間はかりの松
竝一二丁所越へて一丁はかりあけい右へ茶あり
五松はかりの大木二三本ありてその木かけか
湯川へ王子社
是より三丁はかり石はしりみち通りあろく水ふか

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03971

十三丁又いと大なる岩の前をゆく所あり中程より上四五
十八丁過わたるから十二丁ばかり杉林の所を過れば又
一峠也
みつこし峠　茶屋二軒あり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971

李白の詩をよめる詩の書かれたる

紅葉の景　　冷泉　当久郷

晴峯晴雪

古郷こひしきの情ふかき雪の山もはら〳〵とつくしみつゝ

妹島夕照

入日さす汐路の波のいろかすみわたりてだゝ

ゆく舟影

雪のうちは冴しき空も月の秋色深きこゝろおちけのはや

館津帰帆

かへりたなかに雪おまねきてうす霧をひく秋のうら風

名草山晩鐘

名草山ふもとの浦も里こちをふく入あひのかね

紅湾夜雁

沖津ふね里をはるかにおけば紅の湾の夜雁ひとゝ声啼

秋湾漁夜雨

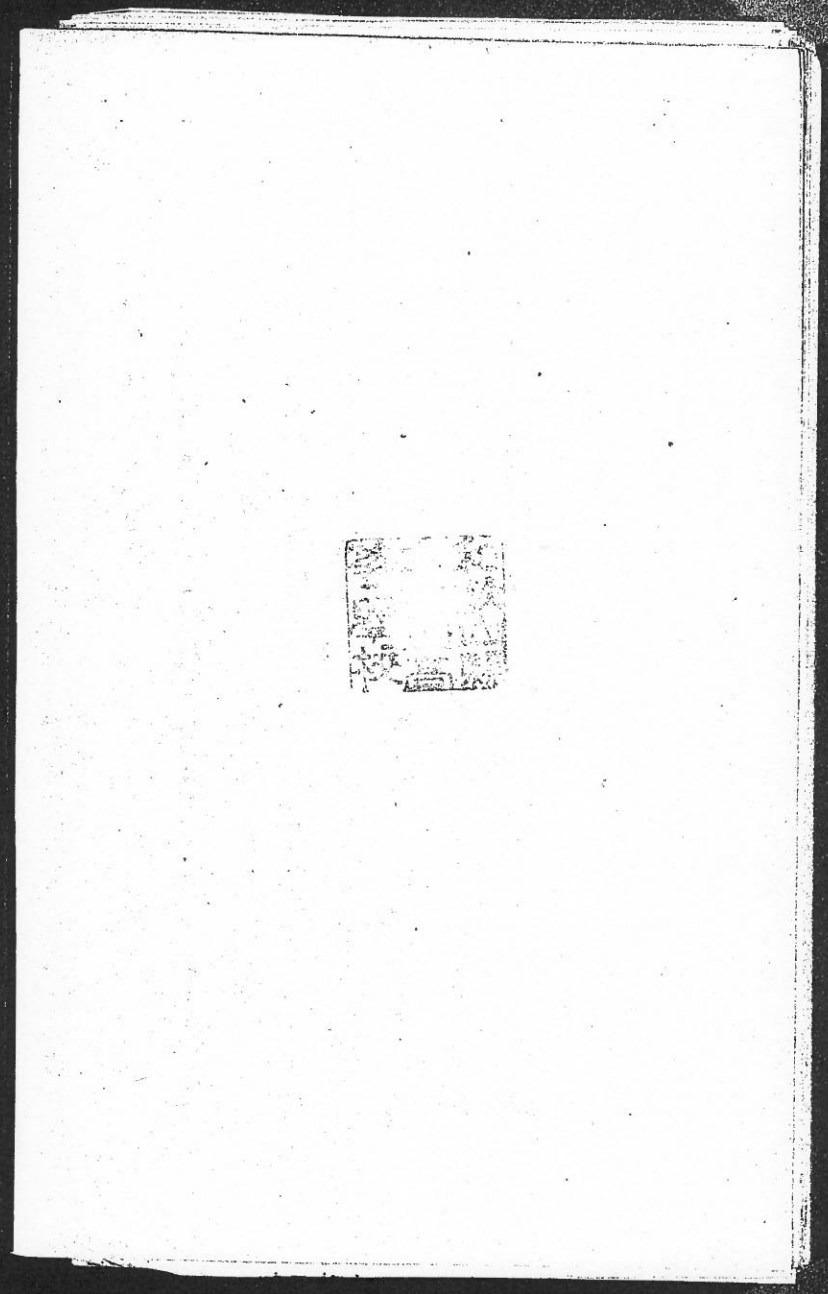
ゆくことやかたみおそうもまかたこぬさとりつゝ一雨をさくよはの

うき白蓑雪

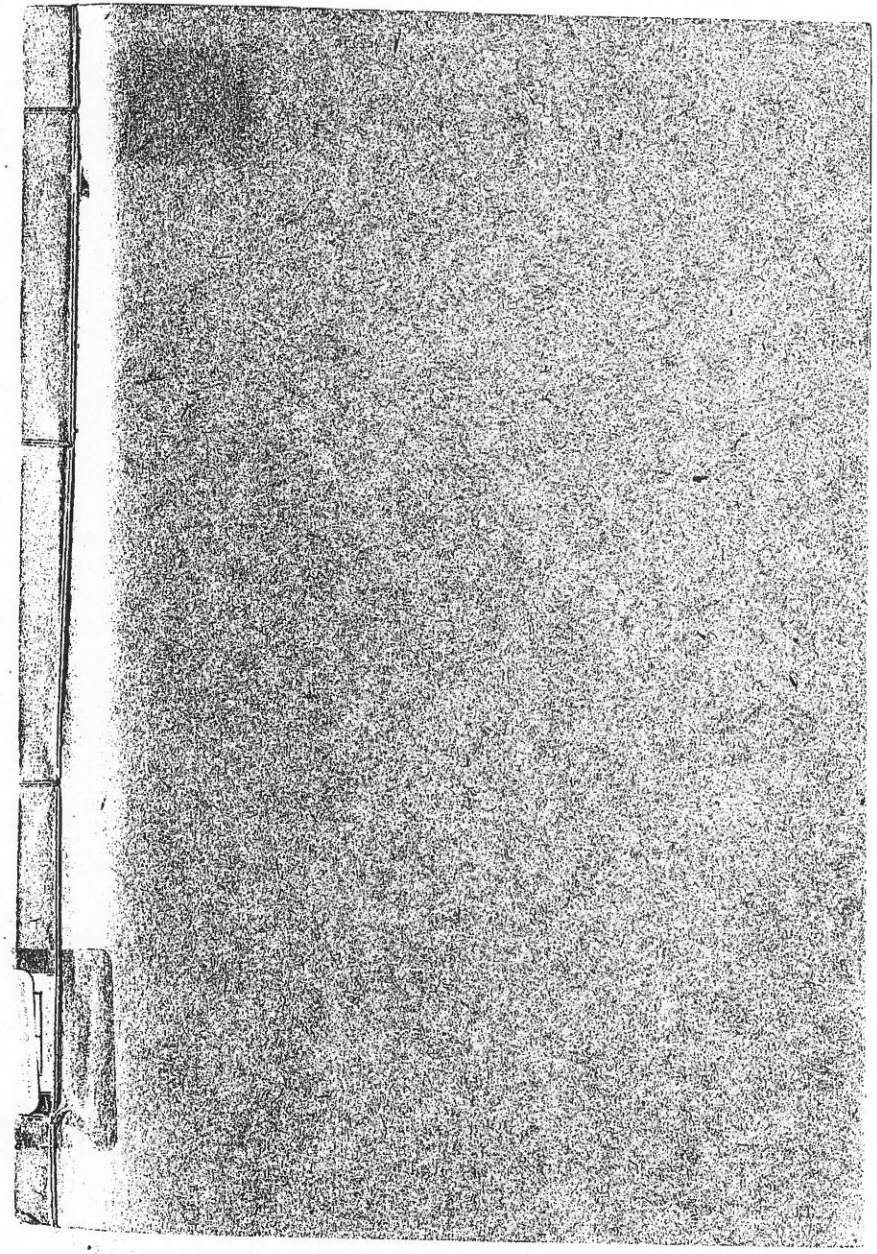
籠白牡　雪のけれまのこれかけて　秋さかりとや狩かこおもらん

女八景のこたえ　七たるやうかれとしるきのは　かりなやこゝ　一花せ　也

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03971